

ふこと久し、いにし天保甲午の年、三河田原に遊事し、俸祿を辱ふせられ、館舎をも給りければ、其四周の竹林中に草薺の多く生じたるを、家奴に命じほらしめ製し試み、其わざをつばらかにし、世にひろくすること、はなしつ、

乙未年仲冬

黄葉園主人誌

〔毛吹草〕河内 芹谷野老 武藏 津久美野老

〔雍州府志〕土産野老 案草薺之類也、洛北鞍馬山之産爲佳、土人掘其根、水洗煮之後、村婦盛布囊戴

頭上、賣京師、一種有稱、江戸野老者、其狀長大而其味甘美也、

〔食物知新〕日域諸國名産

果觚 鞍馬草薺 城州 久津美草薺 武州

〔出雲風土記〕島根郡 凡諸山野所在草木 略 中 薯蕷、草薺

〔古事記〕中 於是坐倭后等、及御子等諸、下到而作御陵、即匍匐廻其地之那豆岐田、自那下三 而哭爲

歌曰、那豆岐能多能伊那賀良邇伊那賀良爾波比母登富呂布登許呂豆良、

〔拾遺和歌集〕物名とち、ところ、たちはな、

思ふどちと。ころもかへすみなれんたちはなれば戀しかるべし

すけみ

〔拾遺和歌集〕十六 春ものへまかりけるに、つばさうぞくして侍ける女どもの、野べに侍けるを見

て、なにわさするぞととひければ、ところほるなりといらへければ、 賀朝法師

春の野にところもとむといふなるはふたりぬばかり見てたりや君

返し

よみ人しらす

春の野にほるくみれどなかりけり世に所せき人のためには

〔空穂物語〕俊隆 いきたるものころすはつみぞ、これをひろひてくへとをしへて、このほかひるひ